

月例会ダイジェスト【47】

安倍晋三首相が自ら「働き方改革国会」と銘打った今年の通常国会。その言葉通り、働き方改革関連法案提出前には予算委員会での与野党の激しい攻防を生み、国民の関心も高い。中でも、最近、過労自殺の事件で大きくクローズアップされた「長時間労働」の是正が、避けては通れない喫緊の課題だ。今回のさんぽ会は「働き方改革・長時間労働～産業医は救世主になれるのか」という時宜を得たテーマで開催された。コーディネーターは高倉孝生氏(ライオン株式会社)、小島健一氏(鳥飼総合法律事務所)、吾妻美佳氏(サッポロビール株式会社)、高家望氏(株式会社東急スポーツオアシス)、海野賀央氏(SCSK株式会社)の5人。

初めに、高倉氏が明治期以降の「産業医の歴史と変遷」と題して講演した。1857年に現・新日鉄住金株式会社の岩手県釜石製鉄所に「診療医」が置かれたのが最初で、その後、1972年に労働安全衛生法の制定で「産業医」が規定された経緯を解説。その中で、現在の8時間労働は1817年に英国の実業家ロバート・オーエン氏が提唱した「8・8・8キャンペーン(仕事8時間、休息8時間、やりたいことに8時間)をルーツに世界へ広まり、日本では1919年に川崎重工業株式会社が初めて採用したことを取り上げた。

次に、海野氏が働き方改革の事例としてIT(情報技術)企業のSCSKの事例を紹介した。2008年ごろ、社長が「寝袋で寝泊まりする社員や、終電後にタクシーが本社に詰めかける実態から、このままでは会社が潰れるとの強い認識を持った」のがきっかけ。長時間残業の削減は「目標は誰でも立てられ、号令をかけるのは簡単」とした上で、「生活残業」という残業代を当てにする社員が多くいる実情を考慮し、残業を削減して浮いた人件費を、会社の利益に回さずすべてを給与に還元した。併せて有給休暇を全部消化後に、インフルエンザに罹患するなどしても特別休暇を付与するなど「社員に心理的に安心してもらうこと」に重点を置いた。加えて、残業は通常、直属の上司が管理するが、「80時間を超えるときは社長の承認を受けなければならない制度を導入した」ことも有効に機能したという。この結果、大幅な残業時間削減と有休取得日数増加につながり、同社は2018年まで4年連続で「健康経営銘柄」に選定されている。

続いて、小島氏が弁護士の立場から今後の働き方について問題提起した。裁量労働制に関しては「実際のどのくらい働いているか会社側が分からず、山のような仕事を押し付

けられ精神的に追い詰められる人が出てきやすい」と指摘。その上で「会社が労働時間を記録・把握していなければ、産業医や産業保健職は事後対応になる。過労死やメンタルヘルス対策における無力感、危機感を感じる」と述べた。また、導入が増えているテレワークは「労働時間を自己申告にすると、チェックができない」としたほか、政府が普及促進を目指している副業に関しても「2つの会社で働く場合に労働時間を通算すると、何時間働いているのか見えない。この問題が全然解決されていない」と批判した。他方、これまで労働時間の記録は「はっきり法律に書いていなかったが、労働安全衛生法で労働時間を把握する義務が明記される方向。高度プロフェッショナル制度との関係で『健康管理時間』という言葉が出てきており、健康のために把握しなければならないことがはっきりしてくる」と最近の動向も示した。

吾妻氏からは、昨年からの働き方改革の取組みにより長時間労働が是正されてきたサッポロビールの事例が発表された。「産業医が週1回3時間契約の嘱託のため、職場の実態をなかなか把握しづらい」中で、常勤の保健師が「表向きの情報だけでなく、職場で何が起きているか」という裏の事情も幅広く集めて産業医と共有して面談を実施。対象者の話と突き合わせて上司や人事担当者に適切にフィードバックすることで効果を上げている点を強調した。

後半は、働き方改革について産業保健スタッフとして何ができるのか、参加者同士で熱心なディスカッションと質疑応答が行われた。発言者の中には「『仕事』の反対語は何かと日本人に訊くと『睡眠』と答えるのに対し、アメリカ人は『遊び』と答える。いい仕事をするためにはただ『有休をとればいい』というだけでなく、その中身が大事。それを皆で考える場をつくるポジティブな部分に関わりたい」という視点や、働き方改革には「社長の本気度が重要。人事部門や産業保健スタッフがどうすればそういう気持ちにさせられるのが難しい」とする見方などが意見として出された。

最後に、高家氏が「今回は私たち自身が本質を見つめて、誰のために、何のために仕事をするのかという確認をする機会となった」と感想を語った上で、「『働く』とは『傍(はた)を楽にする』という意味と聞いたことがある。本人や支援者一人ではできない気がしている。クライアント、ステークホルダーなど、誰かと手を携えて働き方改革を実現する必要がある」と締めくくると、大きな拍手が会場に沸いた。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp/>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>